Size：530×455㎜（F10）

「堤の春」

明るい暖かな日差しを受けて全てが活き活きと輝き活動する春。この絵の時期は昨年の３月末、場所は川幅ほぼ400m、1.3km程の遠くに20年ほど前に再開発で建てられた武蔵小杉高層ビル群が見える多摩川の堤です。

多摩川の堤には多くの人が散策やスポーツに訪れます。絵では見えませんが、堤外のいわゆる河川敷では球技場や野球グラウンド等があり何時も賑わっています。春には咲き誇る桜を目当てに、お花見の人達で一層の賑わいを見せます。

絵は堤の法面に咲き誇るハマダイコンを舞台の一部に見立て、春を表現したいと描いたものです。ウォーキングや自転車を楽しむ人、対岸の堤には小さく見える広場で遊ぶ人や堤内の桜がぼんやりと見通せます（余分なことですが、このハマダイコンの法尻にある桜も満開です）。大きな川を前にすると超高層のビル群もすっぽりと自然に包み込まれた雰囲気です。

絵の構図で検討したことは、手前の堤の高さをどれほどにするかでした。低ければ絵が平凡になり、あまり高過ぎると花達が主役になってしまう……と。着彩では、大きな面積を花達に割いた結果、多くの時間が必要でした。舞台の縁の下の力持ちになってもらうべく、丁寧に根気強く作業をしたつもりです。

春が少しでも届きましたら望外の喜びです。

菊岡　保人